

群 教 セ	E03 02
	平16.220集

# 生徒一人一人の仲間意識 を育てる学年経営

——「リーダー会」の育成を通して——

特別研修員 早川 幸子 (桐生市立広沢中学校)

## 《研究の概要》

本研究は、中学第1学年の生徒を対象に、「リーダー会」を組織し、その育成を通して生徒一人一人に、「仲間を思いやり集団の一員としての自覚を持って行動しようとする『仲間意識』」が育つことを明らかにしようとするものである。生徒と教師共通の願いと実態をアンケートより明らかにし、その問題の改善を目指す「リーダー会」の活動を通して、生徒一人一人の仲間意識を育てる学年経営を目指した。

【キーワード：学年経営 中学校 リーダー会 仲間意識】

## 主題設定の理由

本校の第1学年の生徒は、全体的には、元気で活発な集団である。しかし、中学校入学まで、幼稚園・小学校と同じ仲間を進級してきているため、人間関係が固定化、序列化され、よい意味での競争心や切磋琢磨する機会が失われてきている。特に女子は小グループ化が進み、そのグループから孤立しないように気遣いながら過ごす姿が見られ、本音で語り合えるような人間関係が育っていないように見受けられた。また、男子の言動は幼く、一人一人はよさをもっているにもかかわらず、仲間との小さなけんかやいざこざが絶えず、人間関係がうまく機能していないように見受けられた。

そこで、5月に入って、学年の生徒一人一人が「どんな学年・学級にしたい」と思っているのがアンケートを実施し、調べた。その結果、「明るい学年・学級にしたい」「楽しい学年・学級にしたい」「思いやりがある学年・学級にしたい」が、ほぼ全生徒の願いであることがわかった。この生徒の願いは、学校の教育目標である「思いやりのある生徒」、そして学年目標である「互いを尊重し合い、思いやりの心を大切にする生徒」の具現化された姿ととれる。

そこで、「明るく思いやりのある学年・学級」を生徒及び教師の共通の願いとして設定し、生徒が主体となり、その具現化を図る活動をすすめる「リーダー会」を組織しようと考えた。この「リーダー会」の育成を通して、集団全体を見回して自発的に活動できるリーダーが育てば、担任との関わりの中で学級の「仲間意識」が育つと考え、本主題を設定した。

## 研究のねらい

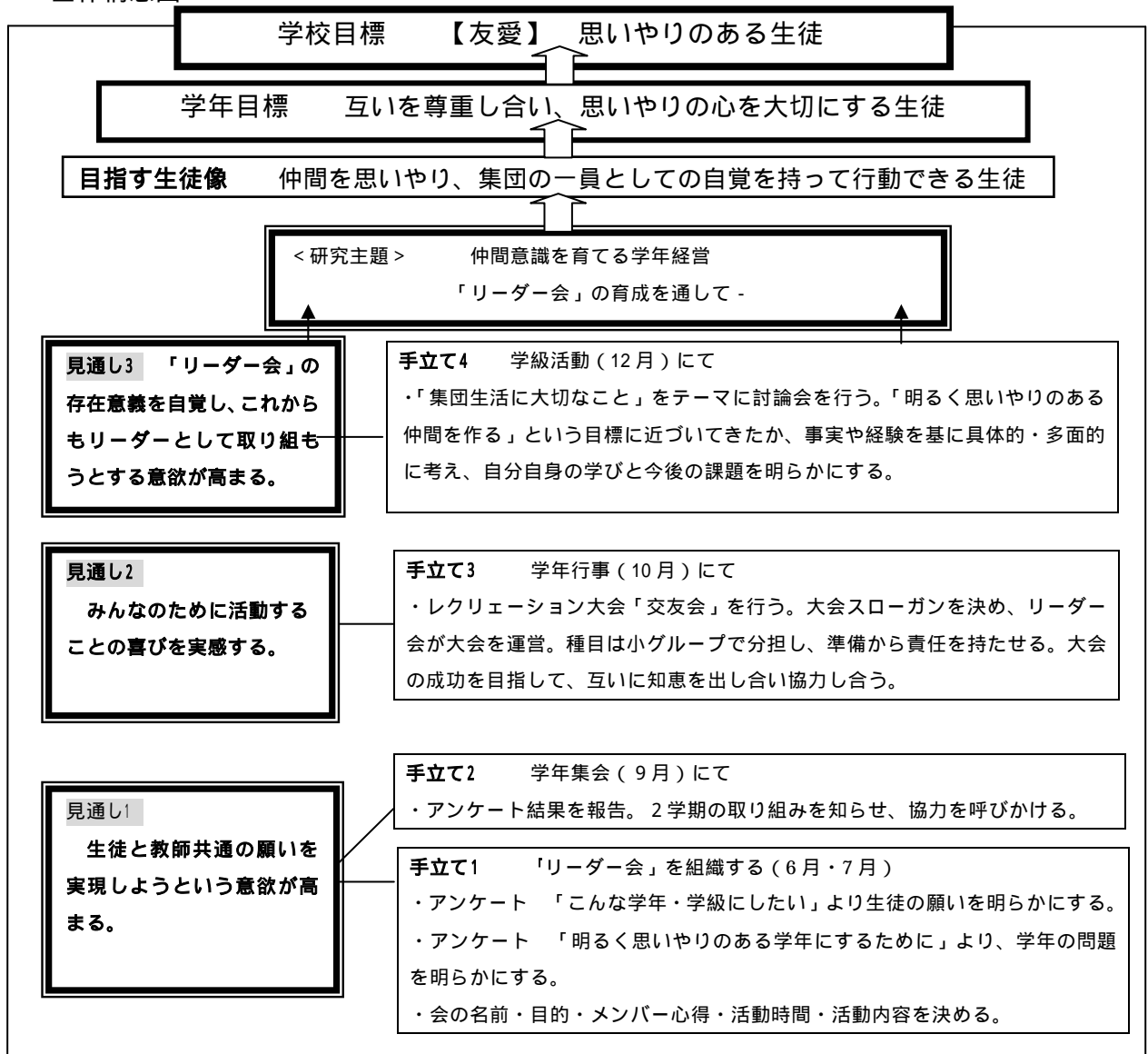
生徒と教師の共通の願いである「明るく思いやりのある学年・学級」の具現化を図る「リーダー会」を組織し、「リーダー会」を育成していけば、集団全体を見回して自発的に活動できるリーダーが育ち、そのリーダーを軸にして「仲間意識」が育つことを、実践を通して明らかにする。

## 研究の見通し

- 1 1学期に「リーダー会」を組織し、「リーダー会」の生徒が主体となって実態調査の分析を行い、現実と理想の違いに気付くことができれば、生徒と教師共通の願いを実現しようという意欲が高まるであろう。
- 2 10月の学年で運用できる時間を使って、生徒と教師共通の願いを実現する学年行事「交友会」を、「リーダー会」が企画運営し活動をすすめれば、みんなのために活動する喜びを実感することができるであろう。
- 3 12月の学級活動において、活動の事実や経験に基づいて「集団生活に大切なこと」をテーマに討論会を行えば、リーダーとしての自分自身の学びと課題が明らかとなり、「リーダー会」の存在意義を自覚し、これからもリーダーとして取り組もうとする意欲が高まるであろう。

## 研究の内容

### 1 全体構想図



## 2 基本的な考え

### (1) 「仲間意識を育てること」について

「仲間意識」とは、「仲間を思いやり集団の一員としての自覚を持って行動できる意識や態度」とらえた。仲間意識を育てることで、意識面では「自分の思いを伝えられる・他人の思いや考えを受容できる・共感できる」、態度面では「言葉かけができる・協力できる・責任を果たせる・規則やマナーを守れる」生徒が育つと考えた。

### (2) 「リーダー会」とは

「リーダー会」とは、学年の中核となり各種行事などの企画運営などに携わる生徒集団のことである。担任の支援を受けて「リーダー会」の生徒が学年の課題に取り組み、「リーダー会」でない生徒にその熱心な姿に気付かせていくことで、「仲間意識」を育てたいと考えた。

#### ア 「リーダー会」の組織

学年の生徒を対象に、生徒と教師の共通の願いを実現するために協力してくれる代表を募り、集まった生徒で、「リーダー会」を組織した。

#### イ 活動内容

実態調査の分析を通して、学年の問題を明らかにし、それを学年全体に提言していく。また、その提言を具現化するために、学年行事などを企画運営していく。

こうした一連の活動を通して、人と人との交わりの中に問題を見出し、それらを解決していく方法を考え行動しようとする意識や態度を身に付けさせ、学年の中核としての自覚とリーダーとしての資質や能力を高める。あわせて、学年の生徒一人一人の仲間意識を育てることに寄与するようにする。

会の集まりは、昼休みや放課後の15分から30分間程度を活用する。次回の内容・議題等については、当日までに教師が全員の意見を集約し能率化を図る。

## 2 実践の概要および結果と考察

検証は、「リーダー会」の生徒と学年全体の変容を、アンケートの結果や活動の記録・観察を通して行う。

### (1) 生徒と教師共通の願いを実現しようという意欲が高まったか。(見通し1)

#### ア 実践の概要

子どもたちの「こんな学年・学級にしたい」という願いから仲間づくりを始めたいと考え、5月にアンケート調査を実施した。そして、その調査結果を提示し、願いを具現化するために協力してくれる生徒の「リーダー会」への参加を呼びかけた。集まった19名の生徒(男子10名、女子9名)で、6月には願いに対する「意識」と「現状」とのずれを見る実態調査を行い、7月にはその問題を話し合い今後の活動を決めた。そして、9月の学年集会で、これまでの「リーダー会」の取組を報告し、学年の生徒への協力を呼びかけた。

#### イ 結果と考察

「こんな学年・学級にしたい」という記述式アンケート結果より、学年生徒のほぼ全員に共通する願いとして「明るい」「思いやりがある」という2点が明らかになった。「明るさ」の中には、「楽しい・元気がある・笑いがある・活気がある」といった願いが、また「思いやり」の中には、「やさしい・助け合える・協力できる・何でも話せる・何でも相談できる・仲間や友達を大切にする」などの願いが込められていた。

「リーダー会」への参加の呼びかけに集まってくれた生徒は、資料1のような思いと願いを持って立候補してく

#### 資料1 リーダー会に入った理由

・もっと楽しく明るく思いやりのある学年にして、毎日学校に来るのが楽しくなるようにしたい。  
・まず自分たちが明るく思いやりのある生徒になって、その気持ちがどんどん伝わっていくような楽しい活動をしたい。 ・役に立ちたい。

れた。一人一人に活躍の場を作り、自信と前向きな姿勢を育てたいと思い、第1回「リーダー会」では、「一年後の自分」という目標のもとに語り合った。(資料2)

6月に、子どもたちの願いとして強かった「思いやり」「協力」「責任」「規範意識」「伝える(自己表現)」「受け入れる(受容・共感)」「学び合い」「仲間意識」を取り上げ、それぞれについて意識と実践状況を調査し、「リーダー会」が集計を行った。その結果、資料3に示すように「仲間」「思いやり」「協力」については、意識と実践のずれが大きいことがわかった。

## 資料2 活動を通して一年後の自分は

- ・みんなに優しくできる人
- ・なんでも一生懸命に頑張れる自分・思いやりを持てる自分
- ・何事にも積極的に取り組めて、思いやりのある自分
- ・未来の2年生を支えてあげられるような自分

## 資料3 アンケート2「明るく思いやりのある学年にするために」の結果 (6月実施) (単位は%)

	価値の意識・実践		A・B
1	思いやりの意識	相手の気持ちを考えて、話したり行動したりすることは大切だと思っていますか。	90.8
	思いやりの実践	相手の気持ちを考えて、話したり行動したりできますか。	66.7
2	協力の意識	仲間が協力し合うことは大切だと思いますか。	91.1
	協力の実践	困っている友達などに、声をかけたり助けたりできますか。	69.2
8	仲間意識	みんなが楽しいと感じる学年・学級にするために、自分ができることはしたいと思えますか。	78.2
	仲間意識の実践	みんなが楽しいと感じる学年・学級にするために、自分ができることはしてきましたか。	47.4

A(よくあてはまる) B(まあまああてはまる) C(あまりあてはまらない) D(全くあてはまらない)

「思いやり」「協力」ともに、「仲間意識」が根底にあって実現できるものである。そこで、「リーダー会」では、生徒と教師共通の願いを「仲間意識を育てること」ととらえ、それを実現する活動を話し合った。その結果、2学期に学年レクリエーション大会と討論会を実施し、学年生徒全体の仲間意識が身近な友達から学級・学年といった大きな集団へと高まっていくことを目指す、という目標を持った。

9月の学年集会で、上述の内容をまとめ協力を呼びかけた。集会後の生徒の感想には、「友達のことをわかるうとしたい」「思いやりのある人になりたい」など、「リーダー会」の投げかけに共感する意見や、「リーダー会」の活動への驚きや期待・励まし・感謝の言葉がみられた。

集会後の学年生徒の言葉は、「リーダー会」のやる気を後押ししてくれた。「協力したい」という声も多く、「リーダー会」の思いが十分に伝わったとうかがえる。学年集会後の学年生徒の感想を読んで、「リーダー会」の生徒は資料4の様な感想を書いている。このことから「生徒と教師共通の願いを実現しよう」とする意欲を高めることができたといえる。

## 資料4 学年集会後の学年生徒の感想を読んで書かれた「リーダー会」生徒の感想

- ・みんなこれからこうしていきたいとか考えてくれたから良かった。
- ・協力してくれる意見がたくさん聞けてうれしい。
- ・1年全員がすごく仲良くなってほしいなあ。
- ・期待に、しっかりこたえられるようにがんばる。

(2) みんなのために活動することの喜びを実感することができたか。(見通し2)

### ア 実践の概要

9月に、「仲間と協力、一致団結」をスローガンに決め、「交友会」(学年のレクリエーション大会)の準備を開始した。10月に、「交友会」を前・後半に分けて実施した。アンケートを「交

友会」の前半終了後、後半終了後に取り比較した。

#### イ 結果と考察

2学期が始まると、「一人にいる子ややる気のない子に声をかける」「準備や説明、お手本をちゃんとやる」など具体的な目的を立て準備を進める中で、「リーダー会」生徒同士の学び合いや協力関係が見られ、資料5にみられるように意欲を持って活動をすすめていた。

10月、大会前半を実施した。生徒の中には、仲よしグループで離れないなど自分勝手な言動が目立った。その結果「リーダー会」で自分たちの活動に満足した生徒は33%であった。結果がだめならがんばったとはいえないと、厳しい意見を述べる「リーダー会」の生徒もいた。

「交友会」前半終了後のアンケート結果を見ると、学年の生徒は自分勝手な言動をとりながらも「リーダー会」の活動を評価しており、「リーダー会」の熱心さに具体的に気付き、感謝や期待・反省の気持ちを書いていた。意識はしているが態度に表せない生徒の実態がうかがえた。そこで、「リーダー会」では前半の運営上の問題を具体的に見直し、反省を生かして後半の運営にあたった。「リーダー会」でない生徒は自分勝手な言動が少なくなり、お互いに協力して楽しむ姿がみられた。後半終了後、アンケート結果を前半と比較したものが資料6である。

#### 資料5 どんな大会にしたいか

- ・男女関係なく協力してみんなで楽しむ。
- ・このことをきっかけに、仲良くなかった人とも仲良くなってもらおう。
- ・みんなが一致団結。
- ・誰とでも仲良くできる第一歩になるような大会
- ・みんながやってよかった楽しかったと思える大会

#### 資料6 アンケート「明るく思いやりのある学年にするために」の結果(10月実施)

(単位は%)

価値の 実践		前 半		後 半		
		リーダ ー会	リーダ ー会 でない	リーダ ー会	リーダ ー会 でない	
		A・B	A・B	A・B	A・B	
1	思いやり の実践	・困っている子やひとりである子に、思いやりのある言葉をかけることができましたか。	66.7	27.4	72.2	46.6
2	協力の実践	・進行している人や周りのみんなの事を考えて、協力できましたか。	72.2	40.3	83.3	77.6
8	仲間意識 の実践	・「みんなが楽しいと感じられるように」行動しようと思いましたが。	88.9	43.5	88.9	70.7
		・「みんなが楽しいと感じられるように」行動することができましたか。	66.7	27.4	88.9	72.4

A(よくあてはまる) B(まあまああてはまる) C(あまりあてはまらない) D(全くあてはまらない)

「リーダー会」でない生徒の「思いやりの実践」は、前半27.4%から後半46.6%へ、「協力の実践」は前半40.3%から後半77.6%へ、「仲間意識の実践」は27.4%から後半72.4%へ増加した。

「リーダー会」の生徒の「思いやりの実践」は、前半66.7%から後半72.2%へ、「協力の実践」は、前半72.2%から後半83.3%へ、「仲間意識の実践」は前半66.7%から後半88.9%へ増加した。

後半終了後の「リーダー会」で、「みんなで楽しい時間を過ごすために必要なこと・大切なこと」を話し合った。その結果、「みんなで助け合う」「困っている子にやさしい言葉をかける」「人を思いやる」「一生懸命行っている人に協力する」「みんなのためにルールを守る」「協力して楽しくしよう」と意識する「周りをよく見て自分勝手に行動しない」といった意見が出された。

このことから、前半の失敗から「楽しさ」の意味の深さを理解し、そこから協力と思いやりの大切さを実感できたといえる。

(3) これからもリーダーとして取り組もうとする意欲が高まったか。(見直し3)

#### ア 実践の概要

12月、学級活動で「集団生活に大切なこと」を話し合った。これまでのアンケートの結果や感想などを資料に、活動の事実や経験に基づいて自分が変容した理由を考え、自分の学びとこれからの課題についてスピーチ原稿にまとめ話し合った。

(注) 討論の仕方については、6月に学んでいる。

#### イ 結果と考察

討論会では、全員がスピーチ原稿に自分の学びとこれからの課題をまとめた。その中から、「リーダー会」の生徒が書いたものを資料7・8にまとめた。

#### 資料7 自分の学び

- ・問題を周りの視点でも考え冷静に判断できるようになった。
- ・思っているだけでは物事は進まないと考えようになった。
- ・相手の気持ちを考えて行動できるようになった。
- ・効率よく物事をすすめられるようになった。
- ・いつも話さない子に声をかけられるようになった。
- ・協力はとても大切だと考えるようになった。
- ・協力することや仲間意識について考えるようになった。
- ・物事や人の奥深さを考えるようになった。
- ・他人の考えが取り入れられるようになった。
- ・人のためになる事ができるようになった。

#### 資料8 これからの課題

- ・友達が悪いときにははっきりと言えるようにする。
- ・周りへの気配りをする。 ・悩んでいる人を助けたい。
- ・思いやりをもっとできるようになりたい。
- ・もっとみんなと協力し合い、仲良くしたい。
- ・全員のことで考えてあげたい。
- ・先のことが考えられるようになりたい。
- ・人に左右されなくて投げ出さなくて物事を続ける。
- ・よく考えてから行動できるようになりたい。
- ・しっかり言葉を選んで話せるようになりたい。
- ・友達の良いところが探せるようになりたい。

討論会后、「リーダー会」では6月と同じアンケートを実施し比較した。特に全体の数値の変動が大きかったのは「仲間意識の実践」で、6月の47.4%から12月には89.5%に増加した。「思いやりの実践」では66.7%から88.2%へ、「協力の実践」では69.2%から82.9%へ増加した。そして、「思いやり」「協力」を大切だと考える生徒は共に100%に達した。「リーダー会」の活動が、学年生徒全体の意識の高揚と実践力の向上に貢献した結果と考える。

「リーダー会」生徒の討論会におけるスピーチや発言には、今後更に仲間を思いやる気持ちを大事にして言動に示していこうとする気持ちなどが述べられていた。このことからリーダーとしての資質や態度を育て、その意欲を高めることができたといえる。

#### 研究の成果と今後の課題

##### 1 研究のまとめ

生徒の願いに沿って活動を組織し支援していくことで、学年全体の意識と態度に変容が現れ、それがまた生徒の意欲や向上心を高めるという良い連鎖関係が生まれることがわかった。相手を思いやり協力し合う「仲間作り」は、子どもたちの最大の願いであり、学校教育の大きな目的の一つだと思った。

##### 2 今後の課題

担任をはじめ他の職員の理解を得て、普段の生活の中で「仲間作り」を意識付け行動できる力を励ます支援を、組織的・計画的に継続し、今後の「仲間意識」の育成につなげていきたい。

#### <参考文献>

中野竹房・日野宜千・森川澄男 編著 『学校でのピア・サポートのすべて』 ほんの森出版社